



明日へつなげる

学びと体験

生きるを学ぶ。被災地の今を訪ねて。



民泊体験から得る
温かい時間



過去の災害と
復興の歩みを知る



防災・減災を
実践・体感





減災・防災を学び、 日本三景松島を訪ねる旅

災害を自分の事として考えるきっかけを作ります。効果的なプログラムを通して生徒自らができることを深く考え、減災・防災に取り組む姿勢を学びます。日本三景・松島では地元の高校生から案内を聞き、生徒どうしの交流を図ります。

東北大学災害科学国際研究所 「みちのく震録伝」

東日本大震災の経験と教訓をテーマに、岩手・宮城・福島各被災地域の現況と復興状況を映像・写真・研究成果等で解説。小学生から大人まで分かりやすい講義やワークショップをリクエストに応じて行います。講師は災害科学国際研究所の先生方が務めます。



東北福祉大学 「減災・防災プログラム」

福祉教育の伝統校としての経験から「災害に強い人づくり」を目的に、同学で考案された体験型の減災・防災プログラムを実施しています。知識だけではなく「なぜ活動を始めたのか?」など、指導役の学生ボランティアの思いにふれ、自ら社会に関わる大切さも学びます。



エコキャンプみちのく「防災プログラム」 (国営みちのく杜の湖畔公園内)

「みんなも大きなパワーを持っている!」。災害時に中高生も担い手として活躍できることを、東日本大震災の教訓を基にした「避難所設営」「災害炊事」などの災害体験プログラムを通して学び、減災・防災の基本「自助・共助・公助」の理解を深め、生きる力を育みます。



宮城県松島高等学校観光科 「観光案内」

平成26年に新設された松島高校観光科の生徒たちが日本三景松島の観光名所を案内します。国内の学校に留まらず、台湾など海外からの学校も積極的に受け入れ、外国語で案内するなど、観光案内を通じた多彩な交流が行われています。



[1泊2日プランの一例] 減災・防災を学び、日本三景松島を訪ねる旅

1日目

13:00

名取市
関上地区で
被災地視察

15:00

仙台市内または川崎町で
プログラムを体験

- ・東北大学災害研「みちのく震録伝」
- ・東北福祉大学「減災・防災プログラム」
- ・エコキャンプみちのく「防災プログラム」の何れか選択

17:00

仙台市(宿泊)



2日目

8:30

仙台市

松島湾復興
語り部クルーズ



11:00

松島高校観光科
による観光案内



12:00

[各地]

[各地]



南三陸を明るく元気にするキャラクター
オクトパス君

地元の人々とふれ合い、 南三陸町の今を学ぶ旅

「同じことを繰り返さないため、東日本大震災を次の世代に語り継ぎたい」。南三陸町がいち早く取り組んだ語り部と震災学習プログラムは、周辺被災自治体の手本になりました。復興への道を歩む町の姿を自分の目で見て、考え、災害に備える術を学びます。民泊体験では、自然とともに生きる人々の思いに、より深く触れることができます。

南三陸町「学びのプログラム」

東日本大震災を経験した地元住民の方々が、震災から学んだことや教訓になったことを伝えます。復興に向かって頑張る人々と接することにより、改めて自分のできることを考え、命の尊さや、家族の絆を考えるきっかけ作りをします。



写真提供：
南三陸町観光協会



南三陸町「民泊体験」

民泊を通して南三陸町の豊かな自然や文化をじっくり体感します。一般の農林漁家で一緒に家事や仕事をして濃密な時間を過ごし、より深い交流を経験します。生徒自身の日常を顧みるきっかけにもなり、人格形成や仲間づくり、感謝の心を育むことにつながります。



入谷 Yes工房 モノづくり体験

廃校になった中学校をリノベーションして平成23年にオープンしたYes工房。試験に置くとパスする縁起物として全国的にも一躍有名になった『オクトパス君』の色付け体験が人気です。また、仙台藩養蚕発祥の地として栄えた南三陸町入谷地区の歴史を学びながら、自分だけのまゆ細工づくりも体験できます。



長須賀海岸 清掃ボランティア

「やっぱり地元の海で泳ぎたい」という子どもたちの願いを叶えるため、復興支援団体「つながり」のスタッフと一緒に海岸を清掃するボランティア活動です。震災から5年以上経過した今でも、悪天候の後は海岸にゴミや瓦礫が漂着するため、年間を通してボランティアの手を必要としています。



[1泊2日プランの一例] 地元の人々とふれ合い、南三陸町の今を学ぶ旅

1日目

13:00

16:00

16:30

南三陸町にて「学びのプログラム」

- ・語り部による震災講話
- ・浸水エリアの車窓見学
- ・仮設商店街の見学

南三陸町で民泊

- ・民泊受入家庭と対面式

各家庭へ

受入家庭ごとに各種体験

お別れ式

2日目

13:00

15:00

南三陸町でクラス別体験学習

〈体験学習〉

- ・Yes工房 (モノづくり体験)
- ・小野花匠園 (農業体験)
- ・農工房 (農業体験)

〈ボランティア体験〉

- ・長須賀海岸 (清掃ボランティア)
- ・神割崎キャンプ場 (清掃ボランティア)
- ・さとうみファーム (牧場支援ボランティア)

各地



各地



東日本大震災の記憶と 漁業のまち気仙沼を知る旅

気仙沼市は宮城県の最北に位置する港町です。東日本大震災で大きな被害を受けましたが、「海と生きる」をスローガンに再起し、魚市場は震災からわずか3か月で漁船の受け入れを再開しました。プログラムでは、市場を支える水産業の現場で復興への歩みや流通の仕組みを学ぶほか、震災の記録を伝える公立美術館を訪れ、被害の状況や気仙沼の食・文化・歴史を学びます。

リアス・アーク美術館 (東日本大震災の記録と津波の災害史)

美術館の学芸員が東日本大震災発生直後から様々な調査活動を実践。館内には写真203点、被災物155点、歴史資料など137点の資料を常設展示しています。風化させてはならない震災の記憶、津波の歴史などを学びます。



気仙沼市魚市場

気仙沼地域では、16世紀後半から漁業が営まれ、江戸末期にはかつお・まぐろ・いか漁が中心に行われていました。世界三大漁場の三陸沖を控え、日本有数の水揚げ高を誇る気仙沼市魚市場を見学。専門のガイドが活気ある水揚げの様子を案内します。



唐桑地区 養殖漁業体験

昔から海と共に生きてきた唐桑地区では、養殖を中心とした漁業が盛んに行われています。地元の現役漁師の方と一緒に、カキやホタテがどの様に育てられているのかを間近で観察しながら、養殖について学びます。三陸の豊かな海の恵みを実感できる体験です。



水産業の職場訪問

まちの産業を支える工場を訪問し、通常は見られない水産業の内側に迫ります。高さ8mまで積み上がった魚箱を職人が自在に扱う「函屋(はこや)」や、100kgを超える巨大氷を作る「氷屋」などをクラス別に見学。生徒が体験できる作業もあります。



[1泊2日プランの一例] 東日本大震災の記憶と漁業のまち気仙沼を知る旅

1日目

13:00

気仙沼市にて
リアス・アーク
美術館見学

15:00

気仙沼市で
被災地視察

17:00

気仙沼市(宿泊)

2日目

7:00

気仙沼市
魚市場見学
ガイドによる
案内

9:00

ホテルにて
朝食

12:00

気仙沼市でクラス別体験学習

- 水産業や水産加工業の工場見学・体験
(例)アサヤ漁具店・藤田函店・岡本製氷・足利本店
- 唐桑地区で漁業体験、ビジターセンター・津波体験館見学

[各地]



[各地]

今につながる。明日へつなげる！ 各種体験のご案内

宮城県沿岸部の被災地には、復興へ向けた取り組みを行っている団体や施設が点在しています。ボランティア体験や震災学習を通して被災地での今を共有し、明日へつなげる想いを育ててください。



気仙沼市 唐桑半島ビジターセンター・津波体験館 **見学 体験**

唐桑半島の自然と人々の暮らしや文化、過去の津波被害の資料や東日本大震災の写真を展示。津波体験館では津波の疑似体験ができます。



気仙沼市 海への森をつくろう会 **植樹体験 ボランティア体験**

震災の記憶を風化させず、未来へ繋いでいく。植樹活動を中心とした故郷づくりを行っています。



南三陸町 さとうみファーム **ボランティア体験**

震災直後から復興支援活動を開始し、平成26年1月に歌津寄木に羊牧場を開設。子ども達の遊び場や自然を学べる観光牧場を目指しています。



女川町 女川桜守りの会 **ボランティア体験**

津波に耐えた「津波桜」を守りたいとの思いから結成された「女川桜守りの会」。桜の町・女川を目指しています。



女川町 ゆめハウス **ボランティア体験**

被災者の自立を支援するため、女川町高白浜で果樹園を運営。高白浜に残った建物を改装し、被災者の働く場、憩いの場を提供しています。



石巻市 みらいサポート石巻 **震災学習**

「語り部と歩く3.11」は、小・中・高校生のための特別プログラム。津波に巻き込まれた場所、逃げた道…。語り部さんの当時の思いも一緒に歩いて共有します。



石巻市 雄勝花物語 **震災学習 ボランティア体験**

津波のメカニズムや特徴を理解し、防災対策の必要性を学ぶ「防災教育」や、被災した子供の心のケア、復興まちづくりプランなどを考える「復興教育」を行っています。



石巻市 浜へ行こう! 実行委員会 **震災学習**

東日本大震災時の体験を基にした防災学習プログラムを提供。互助・共助の“地域力”を学び、災害に備える心構えや、自ら選択する力を身につけることができます。



東松島市 イーストファームみやぎ 赤坂農園 **ボランティア体験**

「東北コットンプロジェクト」に係る綿花畑のボランティア。津波被害により稲作が困難になった農地に、塩害に強いコットンを植えて農業を再生し、東北の復興を応援します。



東松島市 ディスカバリーセンター **見学**

アメリカ海洋大気庁(NOAA)が開発した科学地球儀を設置する国内唯一の施設。地球や宇宙の神秘に触れることによって、自分たちが住む世界について深く知ることができます。



岩沼市 千年希望の丘 **見学**

津波の力を減衰させる「千年希望の丘」。被災に取り組むとともに、私たちの想いをつなぐために、メモリアルパークとして整備しています。



山元町 山元いちご農園 **ボランティア体験**

畑やハウス内の農作業等のボランティア。農園では山元町特産のいちごのほか、ブルーベリーやハーブなども生産しています。



宮城をまるごと“感DO”体験! 出会いの中で、生きた教科書を探しに行こう。



体験的な学習の場として、学舎を離れて実施する教育旅行。このガイドブックで紹介するのは、農林漁業体験や震災学習をはじめとした、宮城県内で得られる多種多様な「生きた教材」。実際に来県された学校の先生方の声やモデルコース、宿泊施設一覧など、宮城県での教育旅行をより具体的にイメージしていただける内容となっております。

お問合せ 公益社団法人 宮城県観光連盟
TEL.022-221-1864
宮城県経済商工観光部観光課
TEL.022-211-2755

ホームページからもご覧いただけます。

宮城県教育旅行ガイドブック 検索

宮城県 沿岸部情報集

みやぎの沿岸部地域の情報を電子ブックでご覧頂けます。



電子ブック版 宮城県沿岸部情報集 **伝えたい。今! vol.3**

みやぎ観光復興支援センター
みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター

被災した地域を実際に訪れ、命の尊さや防災・減災について学ぶ事が出来る案内プログラムや、沿岸地域の各施設情報、地元の人々と触れ合いながらみやぎの歴史や伝統を知ることが出来る体験プログラムなどを掲載しています。

[電子ブックURL] <http://miyagi-kyouikuryoko.com/guidebook/>



みやぎ観光復興支援センター

〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町1-4-1 明治安田生命仙台ビル4階
TEL.022-748-7380 FAX.022-748-7381

みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター

〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町1-4-1 明治安田生命仙台ビル4階
TEL.022-265-8722 FAX.022-265-8771